

一般社団法人日本書字文化協会機関紙



No. 2

2012 7月号

発行
一般社団法人日本書字文化協会
代表理事・会長
大平 恵理
〒164-0001
東京都中野区中野 2-3-26
第一岡ビル 3階
TEL 03-6304-8212
info@syobunkyo.org

《目次》

- ◇中央審査委員会を強化・・・・・・・・・・・・・1
- ◇中央審査委員に聞く(1)長野秀章委員・・・・・・・・・・・・・3
- ◇第1回全国書写書道総合大会開催へ・・・・・・・・・・・・・5
- ◇4都市で初の総合大会錬成会・・・・・・・・・・・・・6
- ◇日中青少年国際書道展の記念式典は南京市で・・・・・・・・・・・・・7
- ◇書文協とは・・・・・・・・・・・・・12

中央審査委員会を強化

副委員長二人制に―加藤東陽委員が就任

一般社団法人日本書字文化協会は、公益財団法人文字・活字文化推進機構と共催で夏の総合大会、冬の伝統文化大会を開くなど事業各分野での大幅改革を進めています。その基盤



加藤東陽副委員長



加藤康弘委員



青山浩之委員

となるのが書写書道の卓越した技量と見識、そして厳正で、公平な審査体制であるの言うまでもありません。このため、大会新編成にともない、中央審査委員会の強化を更に図ることになりました。

新しく副委員長となる加藤東陽委員(66)は福島県出身、埼玉県寄居町在住。東京学芸大学名誉教授。現在は和洋女子大学特任教授を務めておられます。文部科学省の教科調査官、学校の先生方の教科研究団体である全日本書写書道教育研究会(全書研)理事長などを歴任。書家として現在、日展会友、読売書法会理事、千紫会理事長を務め、武道館の審査部長も担当するなど活躍されています。

新委員に加藤泰弘、青山浩之氏

新委員は、東京学芸大学准教授、文科省教科調査官、加藤泰弘氏(47)と横浜国立大学准教授、青山浩之氏(44)の2人。ともに書家で学者。将来の書写書道教育界を担う新進気鋭の人材として注目されています。就任に当たり書写書道の学びで言葉を大事にすることの必要を強調しました。お2人の言葉を紹介します。

加藤委員は愛媛県出身、東京都府中市在住。「書くとは考えること。そういうことを大切にしていきたいと思っています」。青山委員は愛知県岡崎市出身、横浜市在住。「自分への思い、他人への思い、私たちは伝えるために文字を書きます」。



審査委員長
小森 茂
青山学院大学教授



顧問
井上 輝夫（孤城）
全日本書写書道教育研究会会長



審査副委員長
加藤 東陽
東京学芸大学名誉教授



審査副委員長
城所 湖舟
横浜国立大学名誉教授



柴田 五郎
元東京都小学校
書写研究会会長



加藤 泰弘
東京学芸大学准教授
文科省教科調査官



磯野 光象
元文教大学講師



浅井 幸夫
全日本書文化
振興連盟参与



青山 浩之
横浜国立大学
准教授



宮澤 正明
山梨大学教授



蓮池 守一
全国連合小学校長
会顧問



長野 秀章
東京学芸大学教授



永島 國雄
元東京都小学校国語
教育研究会書写部長



辻 眞智子
聖心女子大学講師
文教大学講師

シリーズ

中央審査委員に聞く

その1 長野秀章委員

書文協の中央審査委員会には、新しくご就任いただいた加藤泰弘氏（東京学芸大学准教授、文科省教科調査官）、青山浩之氏（横浜国立大学准教授）を含め14人の先生がいます（1・2面に記事）。書写の技能だけに偏らず、広く言葉の文化全体の領域での専門家ぞろいです。

書文協ではコンクールの審査だけに留まらず、指導法や教材の開発、作品の検定などの諸事業について、さまざまなご指導をいただいています。言ってみれば、中央審査委員会は書文協の頭脳であり、宝です。

そこで、審査委員の先生方はどんなお考えを持つ人なのかを紹介するシリーズを始めることにしました。一番手は、学校の先生方の教科研究団体である全日本書写書道教育研究会（全書研）の理事長として、9月に東京での年次大会を控えた長野秀章委員（東京学芸大教授、元文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）に登場願いました（記事は編集部構成）。

書字文化の背景に新指導要領改訂

——習字を習い始めたのはいつからですか。ある講演で文部大臣賞受賞のことを話しておられました。

長野 小学2年生の時から始めました。文部大臣賞をいただいたのは小学6年のときです。高校で書道に出会い、これは面白いものだと思います、学芸大の書道科に進みました。

——私学の高校でしばらく書道を教えた後、学芸大の助手に転じ、後に文部科学省の教科調査官になられたわけですね。だから長野先生といえば文科省・学習指導要領の固いイメージが強いように思います。でも実は、浅草生まれの江戸っ子。ざつくばらんな書写書道論がとても面白く分かりやすい。例えば、先生は書写の原点として、よく野口英世博士のお母さんが在米中の野口博士に帰郷を懇請したカナ釘流の手紙や御巣鷹山に墜落した日航機の乗客が家族に書き残したダイイングメッセージのことをお話になられますね。

長野 要は、手書きで自分の心を伝える、ということがすべてなんです。極限の状態で、上手に書こうという意識が働くはずがない。字を書くということ突き詰めれば、そういうことなんです。見てくれではない。

——全く同感です。一方で長野先生は平成20年まで8年間文部科学省におられる間に、新学習指導要領（平成20年公示）改訂の動きが芽生え、検討段階に入り、できあがるまで全過

程に関わられました。書写にとって今回の改訂の一番のポイントは何ですか。

長野 国語の授業は、教える内容(領域)として「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域とそれを共通して支える言語事項の3領域1事項で成り立っていました。その言語事項の項目が「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変わりました。これが一番大きいですね。この部分の検討に長い時間をかけました。書写は言語事項の中にあつたのですが、言語事項という何だか技術論だけの木で鼻をくくるような感じがあつて、現場の先生方の間にも実際に教えていることとのすきま感がありました。割り切りすぎ、といいますかね。そのすきま感を埋めるのが文化という観点だということです。

——先生は6月7日に、東京都小学校書写研究会総会で「小学校における書字文化とその指導」の演題で講演をされました。そのとき、文化とつながる言葉の表現といえは書写ではなく、書字であると断定されました。また、本紙の前号でも紹介しましたが、9月27、28日に東京で開く全書研東京大会の大会主題も「書字文化の担い手を育む書写書道教育」です。こうした「書字」という概念が大きく動き出しているのも、指導要領の改訂の流れとつながるものがあると思います。ただ、書字と言っても学校で実際にどうやればいいのかはなかなか見えてこないですね。

長野 取り組みは現場から出てくるものでしょうね。今度の東京大会でも研究発表がいくつも行われます。私から概論的なことを申し上げれば、小学生が手書きで文を書かなくてはいけない場面を授業の中でどう設定してあげるか、ですね。いま、パソコンがなければ文が書けない子が増えています。緊急の場合どうするか。段ボール紙を持って立ったまま字を書くとかね。

書写の基本は守って

——書字文化と言っても、書に走る、つまり書道に向かうということではない、小学校の先生が書道をやる必要はないとも都小書研の講演で言われました。毛筆至上主義になると警戒するとも。

長野 そうです。あくまで「整った字を書けるよう、書き方の秩序を身に付ける」書写の基本をないがしろにしてはいけません。また、伝統文化だから毛筆なんだという短絡もいけない。極論すれば、小学校の先生に書道は必要がない、と言ったわけですよ。

——最後に。どうしてもマイナーな存在になりがちな書写の大切さを国民共通の認識にしておくことは学校教育の力にかかっていますが、民間の書塾は何をすればいいとお考えですか。

長野 こんなにすばらしい字を書ける子がいっぱい育ちま

した、ということをお社会にアピールすることだと思ひます。コンクールだけでなく、そういう場面をどうつくっていくか。子どもたちに何かの形で参加してもらふことなどもいいですね。



平成 24 年 6 月 7 日、東京都西東京市立泉小学校で講演する長野委員

——書文協の取り組みに、書写の上手な子が書写の時間に先生のお手伝いをして他の子に教えるという学びあい、教えあいの運動（教学キャリア学校版）があります。

長野 それはすばらしいことだと思ひます。

（おわり）

次回は宮澤正明委員（山梨大学教授）です

第1回全国書写書道総合大会開催へ

先日DMでご案内しましたが、書文協ではこれまでの「ひらがな・かきかたコンクール」「全国学生書写書道展」「全国硬筆コンクール」を一括し、今夏から秋にかけて第1回（平成24年度）全国書写書道総合大会として開催いたします。目的は要項冒頭に記している通りですが、特に毛筆、硬筆双方への取り組みを普及していくことを目指しています。

お手本の確かさ、審査の公平・公正さ、公益性など書文協の大会運営をご信頼いただき、以下をご参照のうえ奮ってご参加ください。

①個別コンクールの呼称について

再編成に伴いこれまでの回次は使いません。賞状などの表記は次のようになります。

□第1回全国書写書道総合大会

平成 24 年度ひらがな・かきかたコンクール

□第 1 回全国書写書道総合大会

平成 24 年度全国学生書写書道展

□第 1 回全国書写書道総合大会

平成 24 年度全国硬筆コンクール

②総合大会の賞

書字文化名誉大賞、書字文化大賞を置きます。賞は毛筆・硬筆両部門で総合的に優秀な成績を収めた参加者あるいは団体に贈ります。

③個別コンクールの賞

出品数の約 1.5% を特別賞とし、名誉大賞 大賞 中央審査委員会賞 主催者賞 後援団体賞、教育特別奨励賞を置き、それぞれ賞状と副賞を贈ります。本賞は優秀特選・特選・金賞・銀賞・銅賞とし、特選以上には副賞を贈ります。ただし、ひらがな・かきかたコンクールの部では金・銀・銅メダルを贈ります。

④学生展公募の部の課題について

席書大会の規定課題は公募の部自由課題としても応募することができます。

⑤冬の伝統文化大会について

全国年賀はがきコンクール、学生書き初め展覧会の正月関係の 2 つのコンクールを「全国書写書道伝統文化大会」

として統一します。第 1 回伝統文化大会の表彰式は平成 25 年 2 月 17 日に行われます。

4 都市で公開錬成会を開催

書文協の大会の特色はお手本の確かさにありますが、さらに大会への参加が書写技能の向上に着実に結びつくことを願って、作品を書くときの大事なポイント（評価の観点）を公開することとしました。学生展、硬筆コンクールについての課題のポイントは 7 月下旬に書文協ホームページで発表の予定です。また、初めての公開錬成会を開催します。

錬成会は東京、大阪など 4 都市で開催いたします（左表参照）。書文協本部から指導者が出向き、毛筆と硬筆の連動性など書写の基礎知識についても講義します。

大会を単なる受賞競争に終わらせず、多くのお友だちと切磋琢磨する機会を提供する目的もあります。また、指導者同士の交流も目的の一つ。奮ってご参加ください。お問い合わせは書文協事務局まで。

会場

東京・国立オリンピックセンター

名古屋・東桜会館

大阪・ココオプラザ

福岡・さざんぴあ博多

月日

7 月 29・30 日

7 月 26 日

7 月 23・24 日

7 月 31 日

日中青少年交流展

記念式典は南京市で8月24日

日本側から特別賞10人受賞

日中国交正常化40周年を記念した「日中青少年国際書道展」は、中国側は江蘇省対外友好協会（呉錫軍会長）、日本側はNPO法人日中文化交流促進会（劉洪友理事長）が主催して行われました。日本書字文化協会は日本側の作品募集窓口の一つとして協力し、日本側で約2000点、中国側で約8000点の応募がありました。最高賞の特別賞に選ばれたのは日本側では10人。授賞式・記念式典は8月24日、同省の首都、南京市で盛大に催されます。

日本側作品のうち約1500点は書文協を通じて応募されたもので、そのうち特別賞には9人が選ばれました。小紙では今回、書文協を通じて応募した人たちのうち銅賞以上の入賞者と特別賞10人について名前を発表します（学校・学年は旧学年）。

受賞者名簿

〈特別賞 10人〉

鮫島 世玲菜（東京都・光塩女子学院初等科2年）

池田 萌華（神奈川県・横浜雙葉小3年）



南京の南京城城壁（周囲 34 キ口）正門の中華門

廣瀬 恋（大分県日出町立藤原小4年）
鴛田 光平（大分県杵築市立山香小5年）
佐藤 美玖（群馬県桐生市立西小6年）
出射 涼華（三重県四日市市立富洲原中2年）
井上 俊樹（岩手県滝沢村立南中3年）
小玉 愛梨（静岡県立金谷高1年）
木下 綾花（埼玉県立朝霞高3年）
高橋 美桜（千葉県我孫子市立新木小4年）

〈金賞 26人〉

高橋 伶奈（大阪府 カトリックさゆり幼稚園 年中）▽
 竹内 諒（東京都 さかえ幼稚園 年長）
 堀口 陽風（埼玉県熊谷市立久下小1年）
 丹羽 祐貴（群馬県桐生市立神明小2年）▽永江 陽太（東
 京都中野区立平和の森小2年）
 近藤 乃愛（秋田県五城目町立五城目小3年）
 畠沢 愛（埼玉県熊谷市立久下小4年）▽大平 麗雅（東
 京都中野区立江古田小4年）▽野崎 優美（宮崎県宮崎市立
 加納小4年）
 平林 大陸斗（大分県杵築市立山香小5年）▽西田 美咲
 （東京都中野区立桃園第二小5年）▽坂口 晴香（三重県四
 日市市立川越南小5年）
 藤澤 聖華（大分県日出町立藤原小6年）▽川崎 木乃葉
 （東京都青梅市立第一小6年）▽野呂 拓矢（三重県四日市
 市立川越南小6年）
 二階堂 栞（群馬県桐生市立中央中1年）▽岡崎 智子（高
 知県高知市立城西中1年）▽落合 真奈（東京都練馬区立田
 柄中1年）▽大塚 奈央（大分県杵築市立山香中2年）▽朝
 日 達也（宮崎県宮崎市立加納中2年）▽生駒 春佳（東京
 都西多摩郡瑞穂町立瑞穂第二中3年）
 八木 あずさ（千葉県 聖徳大学附属女子高1年）▽浦野

芽衣（埼玉県立川口高2年）▽半田 保奈美（静岡県立金谷
 高2年）

〈銀賞 54人〉

山田 倖大（広島県 安田女子大学付属幼稚園 年中）▽
 鍛冶崎 こうき（高知県 清和幼稚園 年長）▽宮田 優香
 （兵庫県 桃の木幼稚園 年長）
 岩尾 桃幸（大分県杵築市立山浦小1年）▽周東 佑樹（群
 馬県桐生市立広沢小1年）
 小池 千莉（愛知県豊田市立青木小2年）▽石堂 愛実（大
 分県日出町立川崎小2年）▽入江 亜衣（大阪府吹田市立千
 里第一小2年）▽梅澤 幸来（栃木県足利市立葉鹿小2年）
 犬塚 結理（愛知県碧南市立新川小3年）▽小屋 ちひろ
 （大分県杵築市立山香小3年）▽黒岩 蓮（高知市立蓮池
 小3年）▽大平 知雅（東京都中野区立江古田小3年）▽片
 山 琴苗（東京都中野区立桃花小3年）▽松永 紗英（三重
 県四日市市立大矢知興護小3年）
 岩波 麗奈（大分県日出町立藤原小4年）▽吉岡 眞那斗
 （大分県日出町立藤原小4年）▽白崎 裕樹（神奈川県 関
 東学院六浦小4年）▽高田 美奈（埼玉県行田市立泉小4年）
 ▽長谷川 花南（埼玉県行田市立泉小4年）▽竹内 茉永（東
 京都羽村市立小作台小4年）▽水谷 奈那美（三重県四日市

市立富洲原小 4 年) 山本 真悠子 (和歌山市立四箇郷小 4 年)

川部 瑞季 (愛知県豊田市立青木小 5 年) ▽佐々木 明梨 (青森県おいらせ町立木ノ下小 5 年) ▽安部 良夢 (大分県杵築市立山香小 5 年) ▽川村 真由 (埼玉県熊谷市立久下小 5 年) ▽高瀬 未来 (東京都足立区立西新井第一小 5 年) ▽長谷川 奈々 (兵庫県西宮市立春風小 5 年) ▽吉田 明日香 (和歌山市立四箇郷北小 5 年)

植西 美侑 (京都府 立命館小 6 年) ▽関谷 日菜 (埼玉 県熊谷市立大幡小 6 年) ▽南 雪乃 (埼玉県熊谷市立久下小 6 年) ▽神田 宇実花 (兵庫県加古川市立鳩里小 6 年) ▽秋 元 愛花 (兵庫県神戸市立下畑台小 6 年) ▽出射 紬未 (三重 県四日市市立富洲原小 6 年)

中野 紗希 (大阪府立天王寺中 1 年) ▽池田 優香 (神奈 川県 横浜女学院中 1 年) ▽市川 麻矢 (高知県 土佐塾中 学校 1 年) ▽小西 里桜 (東京都瑞穂町立瑞穂第二中 1 年)

鈴木 彩文 (東京都練馬区立田柄中 1 年) ▽松浦 絵里奈 (神戸市立神出中 1 年) ▽大塚 奈央 (大分県杵築市立山香 中 2 年) ▽清水 茜里 (東京都練馬区立田柄中 2 年) ▽内田 陸王 (福岡市立花畑中 2 年) ▽北澤 里茶 (東京都青梅市立 泉中 3 年) ▽今村 泉水 (三重県四日市市立富洲原中 3 年)

脇水 満里奈 (静岡県立金谷高 1 年) ▽吉岡 桃子 (福岡 県 西南学院高 1 年) ▽金山 紘子 (大分県立大分上野丘高

2 年) ▽大塚 紅葉 (埼玉県立川口高 2 年) ▽進藤 愛実 (東 京都立富士森高 2 年) ▽川原 ゆう子 (埼玉県立朝霞高 3 年) 池田 茉奈美 (福岡県福岡市立福翔高 3 年)

〈銅賞 135人〉

関口 美夢 3 歳 ▽大井 琉生 (京都府 こぐま上野保 育園 年中) ▽高德 真秀 (栃木県 堯舜幼稚舎 年中) 幼 稚園 年中) ▽つかもと あさ (福岡県 南ヶ丘第二幼稚園 年中) ▽犬塚 琉理 (愛知県 新川幼稚園 年長) ▽宮崎は づき (東京都 日本女子大学付属幼稚園 年長) ▽安藤苺音 (兵庫県 桃の木幼稚園 年長)

工藤 倫果 (大分県杵築市立山香小 1 年) ▽日高 優 (神 奈川 県横浜市中丸小 1 年) ▽阿部 圭汰 (群馬県桐生市立 広沢小 1 年) ▽戸梶 未彩 (高知市立大津小 1 年) ▽長川 若菜 (東京都 宝仙学園小 1 年) ▽今村 綾乃 (兵庫県加古 川市立野口南小 1 年)

塚原 明音 (奈良県橿原市立白橿原市北小 2 年) ▽本宮 沙耶 (愛媛県 愛媛大学附属小 2 年) ▽西原 茉優 (愛媛県 松山市立北久米小 2 年) ▽阿部 寧希 (大分県日出町立藤原 小 2 年) ▽鍛冶崎 悠 (高知県高知市立初月小 2 年) ▽池田 千優 (東京都練馬区立田柄小 2 年) ▽金山 結依 (神戸市立 下畑台小 2 年) 朱牟田 結菜 (福岡県北九州市立吉田小 2 年)

- 田代 桃（北海道留萌市立緑丘小 2 年）
- 鈴木 航史（愛知県豊田市立青木小 3 年）▽田中 美早紀（愛知県豊田市立青木小 3 年）▽あさじ あかり（大阪府大阪市立桃陽小 3 年）▽木元 聖愛（埼玉県熊谷市立久下小 3 年）▽川村 珠久（埼玉県熊谷市立久下小 3 年）▽森 陽梨（静岡県 常葉学園大学教育学部付属橘小 3 年）▽加藤 春花（東京都瑞穂町立瑞穂第三小 3 年）▽河合 彩葉（東京都瑞穂町立瑞穂第二小 3 年）▽福島 愛奈（東京都練馬区立田柄小 3 年）▽宮入 潤奈（東京都練馬区立田柄第二小 3 年）▽山本 駿（神戸市立伊川谷小 3 年）▽小椋 香奈（神戸市立下畑台小 3 年）▽堀川 萌（兵庫県西宮市立春風小 3 年）▽山口 みなり（兵庫県西宮市立春風小 3 年）
- 上村 優菜（愛知県豊田市立青木小 4 年）▽澤上 春菜（青森県おいらせ町立木ノ下小 4 年）▽清野 琴菜（青森県おいらせ町立木ノ下小 4 年）▽遠藤 紫音（青森県おいらせ町立木ノ下小 4 年）▽織笠 将光（青森県おいらせ町立木ノ下小 4 年）▽佐々木 雅（秋田県にかほ市立平沢小 4 年）▽泰地 美羽（秋田県にかほ市立平沢小 4 年）▽金井 彩夏（埼玉県行田市立泉小 4 年）▽堀口 琴葉（埼玉県熊谷市立久下小 4 年）▽青木 梨南子（東京都 川村小 4 年）▽吉岡 巧倫（東京都練馬区立田柄小 4 年）▽葛本 紗耶（奈良県橿原市立白檀南小 4 年）▽松野 あゆ（兵庫県加古川市立野口南小 4 年）▽伊藤 多絵（兵庫県神戸市立多聞南小 4 年）▽菅原萌子（神戸市立多聞東小 4 年）▽伊敷 静々流（兵庫県西宮市立春風小 4 年）▽新井 健太（福岡県北九州市立吉田小 4 年）▽大江 京香（山形市立第五小 4 年）▽中森 世希朝（和歌山市立四箇郷北小 4 年）
- 篠原 桜子（愛知県豊田市立青木小 5 年）▽中村 新稀（愛知県豊田市立青木小 5 年）▽吉田 凌斗（青森県おいらせ町立木ノ下小 5 年）▽藤井 理緒（青森県おいらせ町立木ノ下小 5 年）▽藤野 恵（青森県おいらせ町立木ノ下小 5 年）▽日野口 恵（青森県おいらせ町立木ノ下小 5 年）▽佐京 桜（青森県おいらせ町立木ノ下小 5 年）▽三上 日向歩（青森県おいらせ町立木ノ下小 5 年）▽工藤 玲実（大分県杵築市立山香小 5 年）▽宮田 早紀（東京都足立区立西新井第一小 5 年）▽山本 紗椰（奈良県橿原市立白檀原北小 5 年）▽平岡 あおい（神戸市立下畑台小 5 年）▽坂口 樹（神戸市立下畑台小 5 年）▽筒井 ありさ（神戸市立下畑台小 5 年）▽与儀 桜（兵庫県西宮市立春風小 5 年）▽松本 拓人（福岡県春日市立春風小 5 年）
- 釜谷 葵（愛知県豊田市立青木小 6 年）▽金井 美都（大阪府立桃陽小 6 年）▽森 陽亮（静岡県 常葉学園大学教育学部付属橘小 6 年）▽柳川 恵梨（東京都足立区立西新井第一小 6 年）▽増川 夢（東京都足立区立西新井第一小 6 年）▽佐藤 萌杏（東京都西多摩郡瑞穂町立瑞穂第二小 6 年）▽

小川 りさこ(東京都練馬区立田柄小6年)▽江口 麻鈴(東京都東久留米市立神宝小6年)▽和気 瀬里菜(神戸市立伊川谷小6年)▽山田 莉穂(神戸市立伊川谷小6年)▽呉山 若菜(神戸市立下畑台小6年)▽伊藤 鮎美(神戸市立多聞東小6年)▽柏田 明日菜(宮崎市立加納小6年)▽松尾 弥耶(和歌山市立四箇郷小6年)

本多 千晴(愛知県豊田市立猿投台1年)▽宮崎 裕梨(佐賀県唐津市立第一中1年)▽加土 夏実(東京都練馬区立練馬東中1年)▽毛塚 友理(東京都東久留米市立東中1年)▽萩原 拓海(兵庫県 六甲学院六甲中1年)▽山本 樹(兵庫県神戸市立伊川谷中1年)▽保野 澪(神戸市立桃山台中1年)▽鳥居 祐希菜(神戸市立桃山台中1年)▽澤田 美優(神戸市立桃山台中1年)▽清水 梨花(神戸市立桃山台中1年)▽鈴木 ひかり(三重県四日市市立富洲原中1年)▽五島 武(高知県 土佐塾中1年)▽武友 開聖(中1)▽吉田 希(愛知県豊田市立猿投台中2年)▽久保田 瞳(熊本県立北部中2年)▽上田 綾乃(高知県 高知大学附属中2年)▽張 敏(千葉県 聖徳大学附属女子中2年)▽原中実穂(東京都 女子学院中2年)▽馬瀧 綾(東京都練馬区立田柄中2年)▽浜砂 春風(宮崎市立加納中2年)▽井上 愛美(高知県 土佐塾中2年)▽榎本 蒼(大阪府吹田市立佐井寺中3年)▽山下 真愛(東京都町田市立つくし野中3年)▽一井 菜緒(神戸市立伊川谷中3年)▽杉本 峻(神

戸市立玉津中3年)▽梅田 愛加(神戸市立桃山台中3年)▽小黑 雄介(神戸大学中等教育学校3年)▽瀬口 さやか(神戸大学中等教育学校3年)

北出 理沙(大分県立大分上野丘高1年)▽鳥羽 夏未(静岡県立金谷高1年)▽飯田 みづ姫(静岡県立金谷高1年)▽長島 望(千葉県 聖徳大学附属女子高1年)▽東ヶ崎 陽那(千葉県 聖徳大学附属女子高1年)▽乾 巴香(奈良県立郡山高1年)▽津田 美宙(石川県立金沢錦丘高2年)▽宮崎 あかり(大分県立大分上野丘高2年)▽牧 優花(大分県立大分上野丘高2年)▽津嘉山 礼(沖縄県立美里高2年)▽穴澤 唯奈(埼玉県立川口高2年)▽友松 和音(静岡県 静岡サレジオ高2年)▽石山 友音(兵庫県立北高2年)▽能登 久美子(山梨県立山梨高2年)▽島袋 裕己(沖縄県立美里高3年)▽内藤 里美(埼玉県立朝霞高3年)▽瀬口 友実(埼玉県立川口高3年)▽奈良岡 美彩(埼玉県立川口高3年)▽中田 綾香(埼玉県立川口高3年)▽青柳 響子(東京都立小平南高3年)



書文協とは

旧・日本書写能力検定委員会の二代目理事長・会長を務めた大平恵理、同三代目事務局長・渡邊啓子、指導主任・佐藤貴子らが中心となって、平成24年1月1日にスタートさせました。一般社団法人として公益性の高い運営を目指しており、略称は書文協。東京のJR中野駅南口ほど近くに本部事務局を置いています。ビル3階の青地に手書きの「書文協」の看板が目印です。

文部科学省の学習指導要領を遵守した書写、書道の学びを中心にしつつ、また「ことばの力」育成にも力を注いでいます。「書字」は幅広い文字・ことばの学びを示す用語として教育界では古くから注目されてきました。新しい学習指導要領で書写の学びに「文化」の観点が導入されました。また、教育課程で言語活動の充実が大きな教育目標とされるなど、時代の要請にも応える形で「書字文化」を取り入れました。皆様になじみのある言葉として定着するように努力して参ります。

書文協の事業の第一は、書写の学びを中心にした教材や指導法の開発です。本部の付属教育・研究機関として「書写書道専修学院」を置き、中野本部と青梅市に同学院教室を開いています。作文教室も併設して開いており、大人気です。

事業の第二は、全国各地での講習会活動です。全国各地での展開という点では通信教育も重視しています。

そして第三に、これらの学びの手段として「書写能力検定」を実施しています。検定で一步步実力アップを確かめながら学びを進めます。さらに検定の成績で段級を付与し、指導者ライセンスを認める事業も展開しています。

最後に、こうした書写・書道の学びの励みとするために全国コンクールがあります。夏に「全国書写書道総合大会」、冬に「書写書道伝統文化大会」を開催します。

